

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 倉田 晃



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	安全パトロール実施事業
<p>事業実施前の 状況</p>	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。</p> <p>H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p> <p>R1年、隊員の高齢化が進み、80歳を機に除隊の申し出が多くなった。</p>

事業名	安全パトロール実施事業
<p>事業実施後の 状況</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p> <p>なお、事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらに、R3年2月,3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。</p> <p>また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。</p> <p>朝のパトロールは走行よりも主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。</p> <p>運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給等などの事務方の処理量が増大している。</p> <p>隊員の高齢化が進み、毎年、80歳を機に除隊の申し出が多くなったので、助手席乗務をお願いしている。パトロールにおいて、幸い事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

別紙のとおり、地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業実施前の状況	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。</p> <p>また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。</p> <p>平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。</p> <p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。</p> <p>平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、webでのゲージル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。</p> <p>平成31年度(RI)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。</p>
事業実施後の状況	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。</p> <p>月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は半減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業の効果	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。</p> <p>新型コロナ感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なう中、自動体温計とアルコール消毒液を設置し、来場者に使用を促し、安全第一で運営を行なった。</p> <p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。</p> <p>コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額の交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた</p>
今後の課題等	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は例年同様にあることから積極的な利用を図りたい思いがあったが、コロナ感染症の拡大は今後も続くと考えられ、市役所へ出掛けなくて済むキオスク端末の利用は増加傾向を示しており、また、トイレのみの利用も多くなっており、換気と消毒を定期的に行いたい。掃除スタッフの不足と共にコロナ対策が衛生上の懸念として上がってきた。</p> <p>子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない。社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。幼稚園児との共同利用を考えるが、未就園児への安全性の確保が問題となり、コロナ対策上も未就園児限定の利用しかない。</p> <p>プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p> <p>コミプラの留守番役のスタッフ、現在13名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。</p> <p>複数年度の事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

別紙のとおり、コミュニティサロン設置事業の評価を報告します。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,309名であり、フリーサロンなどへは 5,288名が来訪された。</p> <p>里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。</p> <p>総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。</p> <p>地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。</p> <p>宿題カフェ会場として利用されている。</p> <p>夏祭り実行委員会の会議、事務利用されている。</p> <p>ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。</p> <p>高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。</p> <p>山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p>

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施後の状況	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p> <p>コロナ感染症の拡大と共に、従前のコミュニティサロンの利用者が大きく減少した。特に会議の類は利用者数を制限した会議をお願いした。</p> <p>その反面、らくらく送迎の利用者が増大してサロン自体の利用者減を補う形になっている。また、キオスク端末の利用が、コロナ禍で外出が控えられているため増加傾向にある。</p>
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約1,155名であり、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。</p>
今後の課題等	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考えていたが、今後ともにコロナ感染症の拡大に対応することが継続されると予測されるため、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。</p> <p>また、コミプラ自体が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

別紙のとおり、まちの情報センター運営事業の評価を報告します。

事業名	まちの情報センター運営事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは5,210名が来訪された。</p>
事業実施後の状況	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」の категорияに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。</p> <p>ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。</p> <p>市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。</p> <p>コロナ感染症拡大の影響で、利用者が減少する中、キオスク端末の利用者は増加している。</p>
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約1,155名であり、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。</p>

事業名	まちの情報センター運営事業
今後の課題等	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事 業 の 評 価 書

別紙とおり、子育て支援環境整備事業の評価を報告します。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施前の状況	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であり、平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回を開催した。</p> <p>社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p>

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施後の状況	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、幼稚園児となる家庭が多く、70組に減少し、令和2年3月～5月にルームの使用を停止し、その後は人数制限を行ったため、述べ1,155名であるが、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。</p> <p>社協の子育てサロンは、コロナ感染症拡大の影響で開催を中断中である。</p> <p>利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>
事業の効果	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集いは中止した。ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し好評を得た。</p> <p>月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となって好評であったが、コロナ感染症拡大の防止で中止した。七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>

事業名	子育て支援環境整備事業
今後の課題等	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が例年多く、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動・適齢玩具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。</p> <p>園児と母親との子育て支援を別途考えるが、支援者が少なく、また現在の新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。</p> <p>4～5月は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止した。今後の開催方法は、部屋の換気能力を上げることができないため、人数制限を維持するしかなく、他の感染防止策とともに考えなければならない。しかし、人数制限等に関し、概して若い母親たちは、感染防止について関心が薄いように見受けられる。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

別紙のとおり、地域コミュニティ紙等発行事業実施事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青パトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p> <p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p> <p>令和元年年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報誌第21号を全戸配布した。</p> <p>令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙第22号を全戸配布した。</p>

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施後の状況	<p>ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミプラの子育て支援ルームの活用を広報している。</p> <p>ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほそごう学園の卒業式のために祝登りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進めた、はぐのさとリサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。</p>
事業の効果	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があったが、協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報に関しての効果は見られない。</p> <p>平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>特に、令和3年3月下旬にほそごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動に関しての講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。</p>
今後の課題等	<p>コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となるが、広報誌を通じての活動の報告は重要であり、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように考えていきたい</p> <p>令和3年度は、本事業は提案されていないが、地域コミュニティ誌を安価に発行する工夫を行う予定である。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台ホームページ管理事業
事業実施前の状況	地域コミュニティ推進協議会の活動内容の紹介、イベントの告知等を、広く地域住民に広報するためのホームページが整備されていなかった。
事業実施後の状況	ホームページ「伏尾台で暮らす」(https://fushiodai.dekuras.com/city-story)のコンテンツを更新して、伏尾台地域の最新情報や協議会活動を地域住民ならびに地域外の人たちにも広く広報することができた。
事業の効果	「伏尾台で暮らす」にアクセスすると、協議会の広報誌の閲覧、イベント情報、協議会の活動を、伏尾台の他の活動グループとともに閲覧することができる。
今後の課題等	協議会の活動を担当する部会毎に紹介し、今後の計画や活動予定を広報するコンテンツが作成されていないので、これを整備して充実したホームページにしたい。

様式第5号(第7条関係)

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 昇



事業の評価書

別紙のとおり、防犯防災啓発事業の評価を報告します。

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度1074戸毎年減少)</p> <p>平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。12月27日,29日,30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。</p> <p>2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。</p> <p>3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p> <p>平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。</p> <p>6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。</p> <p>8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。</p> <p>8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。</p> <p>11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数学年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。</p> <p>12月27日,29日,30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。</p> <p>R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。</p>

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施後の状況	<p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月9日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。</p> <p>訓練活動は、6月21日、資機材の点検使用訓練に12名参加。11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。</p> <p>住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3密を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。</p>
事業の効果	<p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面中心であり、訓練は少人数で2種のみであり、年末警戒パトロールは屋外であったので実施した。</p> <p>「密にならない避難所運営訓練」を行い、間仕切りテントが有効なことを確認し、備蓄品として購入できたことが本年度の唯一最大の効果であった。</p>
今後の課題等	<p>コロナ感染症は変異株の拡大が今後も継続していくと予測され、今後とも容易に空気感染するとの認識で予防を行う必要があると考えられる。</p> <p>一方、総合防災訓練時の引率リーダーの養成のために、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状態が続き、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われる。</p> <p>また、地域の安全を高齢者と共に考えて貰えるように、ほそごう学園の生徒が地域とのイベントに参加できるよう計画するも、学園側も生徒の安全を最優先とするため、実施の目処が立たないのが現状である。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 昇



事業の評価書

別紙のとおり、伏尾台地域活性化事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域活性化事業
事業実施前の 状況	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。</p> <p>平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。</p> <p>平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。</p> <p>これまで31回の山びこフェスタを開催した。</p>
事業実施後の 状況	<p>前年度の3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、本年度前期も引き続き、イベント開催を中止した。</p> <p>10月25日(日)午後から落語の会を予定し、10月13日より事前予約で50名を目処に、旧伏尾台小学校職員室にて、第32回山びこ寄席 二人会を開催した。</p> <p>その入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行った。また、高座には透明ビニールによる間仕切りを用いた。</p> <p>11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。</p> <p>このイベントも前回同様に事前予約を行い、入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取りマスク着用で着席してもらった。</p>

事業名	伏尾台地域活性化事業
<p>事業の効果</p>	<p>10月25日 「落語の会」 1.5時間 55人</p> <p>11月2日 「音楽ライブ」 1.5時間 55人</p> <p>第32回の寄席開催に際して、落語セット(見台、膝隠し、めくり、小拍子)を購入して使用し、今後の開催に備えることができた。</p> <p>第33回ライブの開催直前に、ステージピアノ、キーボードスタンド、ライブ音響セットを購入し使用し、今後の開催に備えることができた。</p> <p>広報誌のとおり、落語、コンサート、それぞれ1回の開催であったが、盛会であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。</p> <p>今回の会場を旧伏小南校舎としたので、終了後にポプラ学園、フリースクールの紹介と見学会を行い、見識を深めてもらうことができた。</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言ひ、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。</p> <p>例年は、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多いが、コロナ感染症対策のため、人数制限の事前予約制で掲示板に掲載するのみの広報を行なったところ、10日程度で定員の50名に達した。</p> <p>地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされてる方が増加している中、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止し、開催回数が半減したため、今後の開催方法を模索する必要がある。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	地域イベント備品整備事業
事業実施前の状況	旧伏尾台小学校南校舎の1階並びに2階の9教室と配膳室を使用して、ほそごう地域における多世代交流施設「はぐのさと」として活用する際など、校舎や運動場で、地域住民が夏祭り、運動会、音楽会、ワークショップなどの各種イベントを開催する場合、その開催を容易に行えるよう種々のイベントに共通して必要な備品が整備されていなかった。
事業実施後の状況	夏祭り、運動会、音楽会、ワークショップなどのイベントで必要となる、設営が容易なワンタッチテント、折り畳み式の長机や椅子、音響機器などを購入整備した。
事業の効果	旧伏尾台小学校校舎や運動場で、地域内交流イベント開催を援助する準備が完了した。よって、貸出を行い、地域内の多世代交流を増進して地域コミュニティの推進を図ることが可能になった。
今後の課題等	コロナ感染症拡大の防止期間中でイベント自体の発案が無いので、この時期を利用して、管理場所の整備、備品台帳の作成、貸出し規則の制定、管理責任者の選定などを早急に行う必要がある。

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 倉田 晃



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台創生会議2020宣言広報事業
事業実施前の状況	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。</p> <p>この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。</p>
事業実施後の状況	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。退色は少しであるが、汚れが目立つようになっている。</p>
事業の効果	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往来者に広報できている。</p> <p>昨年、1丁目に居住し、11月に出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>
今後の課題等	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 倉田 晃



事業の評価書

別紙のとおり、伏尾台地域送迎サービス事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢や病気などで運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対しての救済手段が全くなかった。</p> <p>そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。</p>
事業実施後の状況	<p>送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。</p> <p>コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けることができるようにした。</p> <p>送迎車両は、リース契約を行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に乗務可能な日時を登録しておき、利用者の申し込み日時とのマッチングを図り、送迎を行った。</p> <p>一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、選択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。</p>
事業の効果	<p>MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。</p> <p>送迎申込回数は、別紙のとおり、本年度内で520回を超え、送迎人数は800人を超えた。</p> <p>なお、令和3年7月末時点で、登録者数は200名を超え、送迎申込回数は800回を超え、送迎人数は1070名を超えた。</p> <p>送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。</p>

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
今後の課題等	<p>無償ボランティアドライバーは、事業のスタート時から2名が健康上の理由からリタイアしたが、幸い2名の補充が叶い現在に至り、現在10名である。</p> <p>平均年齢75歳のドライバーが、平均年齢80歳の登録者を送迎しており、本事業が地域に不可欠な事業となった今、登録者数は増加傾向にあり、当然平均年齢が上昇する中、送迎ドライバーの確保とともにその平均年齢を60歳代に引き下げよう努力する必要がある。</p> <p>伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている。なんとか協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体に事業委託する形態の事業、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。</p>

令和3年8月6日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 倉田 晃



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	ほそごう地域花いっぱい運動支援事業
事業実施前の状況	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区)と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要があった。
事業実施後の状況	必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もパンジー、ビオラのプラグ苗を約1000株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成したパンジー、ビオラは、令和2年12月17日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。
事業の効果	ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。
今後の課題等	義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して支援したい。